



精密聴力
検査を
受けましょう!

しんせい じちようかくけん さ
新生児聴覚検査で

ようせいみつけん さ
「要精密検査」を伝えられた

ご家族や保護者の方々へ



お子様のお誕生、おめでとうございます。

これまで毎日、お誕生を心待ちにされておられたことと思います。

この度、赤ちゃんの^{しんせい しちようかくけん さ}新生児聴覚検査（初回検査）と、
それに続いて行われた確認検査（再検査あるいは二次検査）の結果、

「^{ようせいみつけん さ}要精密検査」

ということで、
聴こえのさらに詳しい検査が必要との知らせを受けて、
大変ご心配なことと思います。

おそらく、今保護者の方々にはお聞きになりたいことが
たくさんあると思います。

このパンフレットでは、

保護者の方々からよく寄せられる疑問（**Q**）にお答えし（**A**）、
今後の検査、治療、^{りょういく}療育などについてご紹介したいと思います。





「しんせい しちようかくけんさ新生児聴覚検査」とは？ またどうして必要なの？



- A. しんせい しちようかくけんさ今回受けられた新生児聴覚検査は、
生まれてすぐの赤ちゃんに対する「聴こえの検査」です。
出生した産院や医療機関で退院するまでの間に行われます。

赤ちゃんが眠っている間に音を聞かせて、脳波などを調べます。赤ちゃんは検査中何の痛みも感じませんし、副作用もありません。この結果、「ようせいみつけんさ要精密検査」であれば、専門の病院で詳しく調べる必要があります。

人は母親の胎内たいないにいる時から、さまざまな音を聞き、生後1カ月前後でもお母さんの声を聞き分けることができると言われています。赤ちゃんは大人のあやし声や子守歌などを全身でとらえ、アー・ウーなどと反応したり笑ったりして「やりとり」を楽しみ、心はぐくを育てていきます。それらがコミュニケーションやことばの土台となって、1歳半頃に簡単なことば（単語）を、2歳頃に2～3語続いたことばを話すようになり、3歳半頃には簡単なやりとりができるようになります。この間、こどもたちは「聞くことを楽しみながら、まねて、使って」ことばを身につけていきます。しんせい しちようかくけんさ新生児聴覚検査を行わなかった場合には、聴こえにくくても2～3歳まで気付かれないことが多く、これでは心の育ちやことばの習得の大切な時期を逃してしまいます。その他、聴こえにくいと、周囲の音や声に気付かず危険な目に遭ったり、周りの状況を正確に把握できなかつたりすることがあります。





「ようせいみつけんさ要精密検査」とは何を意味するの？



- A. これは必ずしもなんちよう難聴があることを意味しているわけではありません。
今回受けられたしんせい じちようかくけん さ新生児聴覚検査はささやき声程度の音で行われており、今回の結果は「その音に反応がなかった」ことを意味しています。

例えば、検査の際に赤ちゃんの機嫌が悪かったり、体が動いたりしても反応が出ないことがあります。また生後すぐは耳の中（外耳、中耳）にようすい たいし羊水や胎脂（赤ちゃんの皮膚表面にあり皮膚を守る物質）が溜まっていて、それが一時的に聴こえや検査への反応を邪魔していることもあります。そのため、せいみつけん さ精密検査の結果、明らかななんちよう難聴はみられず「経過観察」となることもあります。

しんせい じちようかくけん さ新生児聴覚検査で「ようせいみつけん さ要精密検査」になることはそう珍しくありません。これまでの国内外の統計によると、実際になんちよう難聴がある赤ちゃんは、新生児1000人の中で1～2人です。後に述べますように、もしなんちよう難聴があれば本当に聴こえにくいのか、どれくらい聴こえにくいのか、あるいは何が原因で聴こえにくいのかをできるだけ早く確定して、治療や聴こえを補う方法を検討し、赤ちゃんとの音のある生活を楽しみながら言葉の発達や音の識別のためのりよういく指導（療育）を始めることが大切です。



3

精密検査はいつ、どこで、 どのような方法で受けるの？



A. まず検査を受ける時期ですが、産院を退院後にできるだけ早く（遅くとも生後3カ月までに）受けることをお勧めします^(註1)。

検査を受ける施設は、赤ちゃんでも正確に聴力が測定できる設備を持つ耳鼻咽喉科がある精密聴力検査機関ですが、各都道府県ですでに指定されています。各都道府県の精密聴力検査機関の一覧はこちらをご参照ください (<http://www.jibika.or.jp/citizens/nanchou.html> 裏表紙にQRコードもあります)。地域などの事情で精密聴力検査機関を受診できない場合には、二次聴力検査機関を先に受診していただく場合があります。

代表的な検査方法は、聴性脳幹反応(ABR)や聴性定常反応(ASSR)です。これらの検査は新生児聴覚検査よりも詳しく、難聴の有無だけでなく、難聴の程度や特徴の診断ができます。詳しい検査なので測定には1時間近くかかることがあるため、多くの場合、お薬でよく眠った状態に導いて検査を行います。また必要に応じて他の検査(ティンパノメトリー—中耳に溜まっている液の診断、CT—耳の構造の異常を検出)を加える場合もあります。

これまでの研究から、生まれつきあるいは生まれたばかりのお子さんの聴覚に問題がある場合には、その確定診断や補聴器などによる聴覚の支援、また特に重い難聴の場合には人工内耳^(註2)などの治療をできるだけ早く行くと、その後のお子さんの言語獲得が良好になることがすでにわかっています。



註1 サイトメガロウイルス感染が難聴の原因となることがあります。この感染症は、生後3週間以内に赤ちゃんのおしっこを検査することで診断できます。産院の先生とご相談ください (https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/CMV_sindan201809.pdf)。最近ではサイトメガロウイルスに有効なお薬で治療することにより、難聴の進行を抑えることが期待されますので、早期の対応が望めます。

註2 人工内耳—音を感知取る内耳の細胞がほとんど機能を失った重い難聴に対して、手術的に内耳に電極を入れて聴こえの神経を直接刺激して聴こえを改善する医療です。詳しくは日本耳鼻咽喉科学会ホームページをご参照ください (<http://www.jibika.or.jp/citizens/hochouki/naiji.html>)。

4

私の赤ちゃんには本当に難聴があるの？



**A. まさにこのご質問にお答えするために
精密検査が必要なのです。**

前述のように、新生児聴覚検査はあくまで聴覚の簡単なスクリーニング検査であり、そのスクリーニング検査で聴覚の可能性が疑われた赤ちゃんに精密検査を行うことで、難聴の有無がほぼ確定的に診断されます。ただし、稀には難聴があるかどうかを確定するのに精密検査を何度か行うこともあります。

また、赤ちゃんの聴覚に関係する、耳および脳の神経系統は生まれてからも発達します。今回は難聴があると診断されても、成長に伴って聴覚が改善する場合がありますので、定期的な観察が必要です。

5

もし赤ちゃんに難聴があるとしたら、どの程度なの、治るの？



A. お子様の難聴が治療や経過により治るのかどうかはその原因によります。

難聴の確定診断とともに、難聴の程度を調べるのが精密検査です。この検査では、どの音の高さ(周波数)が聴こえないかなど、より詳しい聴力の測定が行われます。それにより難聴の原因や今後の経過の見通しがわかることもあり、さらには治療方針決定の重要な手掛かりが得られることもあります。

お子様の難聴が治療や経過により治るのかどうかはその原因によります。一般に外耳・中耳が原因のもの(伝音難聴)ほど、また難聴の程度が軽いものほど治りやすく、逆に内耳やその奥の神経・脳が原因のもの(感音難聴)、また程度が重いものほど治りにくい傾向があります。しかし重い難聴でも補聴器や人工内耳によってよく聴こえるようになり、ほぼ支障なく日常生活を送れるようになるお子さんもたくさんおられます。





もし精密検査で難聴がなければ、 これからずっと大丈夫なの？



A. 多くの場合は大丈夫ですが、生後も中耳炎や流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）などの病気で難聴が起こる可能性があります。

また、遺伝子の変異や先天性サイトメガロウイルス感染症による難聴の中には、生まれた時には異常はなく、成長とともに難聴が進む場合もあります。そのため、聴覚に関しては新生児聴覚検査の他に、1歳6カ月児健康診査や3歳児健康診査でも聴覚検診が行われる制度があります。詳しくは日本耳鼻咽喉科学会ホームページをご参照ください（http://www.jibika.or.jp/members/iinkaikara/hearing_loss.html）。

裏表紙にQRコードもあります）。

また、保護者の方々も日頃からお子さんの聴こえ、すなわち「呼びかけに対する反応が悪くないか」、「テレビのボリュームを大きくしていないか」などは気にかけておくことが大切です。

母子手帳には、年齢ごとの発達の目安が書かれていますので、参考にされることをお勧めします。



様の検査

検査年月日		検査方法
1回目	〇〇年 ●月 〇日	
2回目	〇〇年 ●月 〇日	

● スマホからQRコードをかざしてサイトをご覧ください。

ページ	リンク先	QRコード
5ページ	<p>新生児聴覚スクリーニング後・ 乳幼児健診後の聴力検査機関一覧 (日本耳鼻咽喉科学会ホームページ) http://www.jibika.or.jp/citizens/nanchou.html</p>	
	<p>先天性サイトメガロウイルス感染の確定診断のための 生後3週間以内の新生児尿を用いたCMV核酸検査が 保険適用になりました https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/CMV_sindan201809.pdf</p>	
	<p>人工内耳について (日本耳鼻咽喉科学会ホームページ) http://www.jibika.or.jp/citizens/hochouki/naiji.html</p>	
7ページ	<p>難聴を見逃さないために 一歳6カ月児および3歳児健康診査一について (日本耳鼻咽喉科学会ホームページ) http://www.jibika.or.jp/members/iinkaikara/hearing_loss.html</p>	

このパンフレットは、令和3年度において、厚生労働科学研究費補助金
(GC障害者政策総合研究事業)を受け、実施した研究の成果です。

[作成協力] 日本産婦人科医会母子保健部